結城紬の伝統的生産工程の紹介

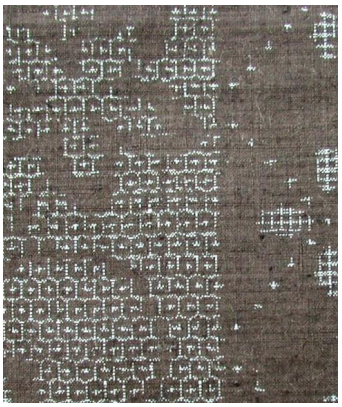
担当部所　　：　栃木県産業技術センター　紬織物技術支援センター

結城紬とは

結城紬は、古くから伝わる手法により現在まで生産を続けている最高級の絹織物です。栃木県小山市、茨城県結城市を中心とする地域で生産されています。

真綿（まわた）から引き出す手つむぎ糸を用い、手くくりなどで絣（かすり）糸をつくり、地機（じばた）で織るという伝統的な技法を今に伝える織物です。

結城紬は、軽くて暖かく、柔らかな独特の風合いが魅力で、絣柄には亀の甲羅の形に似た亀甲（きっこう）絣や十字絣が使われます。



絣柄（亀甲と十字）

結城紬の生産工程

結城紬の生産工程は40工程以上に及ぶと言われていますが、主な4工程について説明します。

①糸つむぎ

真綿を「つくし」と呼ばれる道具に巻き付け、手で細く引きながら、唾液を付けて一定の太さにまとめます。

1反（着物1着）分の糸をつむぐのに2～3か月程度かかります。一人前になるには数年かかると言われています。

③たたき染め

絣糸を熱湯で煮ることにより、くくった綿糸が絣糸を締め付け、防染の役割をします。

くくった部分の狭い間も均一に染色するため、束にした絣糸を棒の先に付け、床に適当な回数を叩き付けることで染料を浸透させます。

②絣くくり

絣模様が正確に出るように、設計図案にしたがって、絣の色を残す部分に墨付けを行い、綿糸を使用してくくります。

絣のくくり方は、染色時に糸が解けないように、染色後は容易に解けるようにくくる技術が必要です。

④機織り

結城紬は地機と呼ばれるわが国で最も古い織機を用いて織られます。地織に腰掛けた状態で、たて糸を上下に開口させ、その間に杼（ひ）でよこ糸を通し、しっかりと打ち込んで織り上げます。

絣を織る場合は、柄を合わせながら織りあげます。

柄にもよるが、織り上げるには1～3か月かかります。特に複雑な柄は1年以上を要すことがあります。

※　結城紬の生産工程には、この他にもボッチ揚げ、機延べ、糊付け、筬（おさ）通し、機巻き等数多くの工程がありますが、手作業の伝統を守り続けています。

PRポイント

結城紬の生産技術は昭和31年に国の重要無形文化財、昭和52年に伝統的工芸品に指定されました。また、平成22年にはユネスコの無形文化遺産に登録されました。

このように、結城紬の技術、文化は高く評価されており、後世に伝えていくべきものです。

ご来場の皆様へ

問い合わせ先：栃木県産業技術センター　紬織物技術支援センター　TEL　0285(49)0009

●後継者育成事業により、伝習生・研究生等が実習で製作した結城紬着尺や小物製品を紬織物技術支援センターで購入することができます。